別紙３

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
（分担）研究報告書

医師の労働時間短縮のための手法に関する検討（21IA20002）

研究分担者　生田義浩　熊本大学病院中央手術部准教授

研究要旨

医師の労働時間短縮のためには「医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化（タスク・シフティング、タスク・シェアリング）」を徹底して取り組んでいく必要がある。本研究では、患者への説明用動画（各種検査・輸血・麻酔・手術等）といった資材の開発、予診や問診といった患者から情報収集をする際に用いる項目のリスト化、各種書類仮作成に用いる定型文の作成等を行う。作成した動画を用いて実際の臨床現場で効果検証する。

生田義浩　熊本大学病院中央手術部

（麻酔科）

A．研究目的

「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」において、現行制度の下で実施可能な業務のうち、特に推進するとされた業務のなかから、定型的業務を抽出し、説明補助の動画等を作成し、臨床応用を行う。

B．研究方法

事前に熊本大学病院麻酔科医師へのアンケート調査を行い、同意書取得の時間削減に関与する因子を抽出した。
アンケートの結果から、麻酔科領域では麻酔前診察における説明時間が最も労働時間短縮に及ぼす影響が大きいと考えられたため、説明補助の動画を作成した。
作成した説明補助動画を術前外来で使用し、同意書を取得した。取得後、患者へ①動画の長さ、②音声、③文字、④説明内容、⑤麻酔の理解についてのアンケートを取得した。アンケートは、各項目以下に示す0～10の11段階で評価した。

C．研究結果

対象は63名。男性29名、女性34名。
年齢は13～90歳、平均57.5±19.2(SD)歳。
① 動画の長さは平均　3.5
（0：とても長い、10：とても短い）
② 音声は平均　2.5
（0：良い、10：悪い）
③ 文字は平均　2.2
（0：見える、10：見えない）
④ 説明内容は平均　1.8
（0：良く分かる、10：分からない）
⑤ 麻酔の理解については平均　1.6
（0：役に立つ、10：役に立たない）
外来担当麻酔科医の評価は良好で、負担軽減には貢献できるとの評価を得た。

D．考察

医師の時間外労働削減目的で、麻酔科に関しては、同意書取得に直接的に関係する資材（一般的な合併症まで説明する）の作成は有効であると考えられる。
今回作成した説明動画は、同意書取得を目的とした動画であり、詳細な説明のため、15分程度の長さが必要であった。また、パワーポイントで作成し、各施設でカスタマイズ可能とした。
今回、実際動画を閲覧した患者からのアンケート結果は、比較的良好な評価が得られた。特に重要である麻酔の理解は、とても役に立つ評価が得られた。今後は、使用後の実際の担当麻酔科医の労働時間削減の評価が必要である。

E．結論

麻酔同意書取得削減目的で説明動画の資材作成を行った。試験的な臨床応用では、患者からの評価は良好であった。
動画の日常的な使用には更なる評価が必要であるが、麻酔科医の負担軽減、労働時間削減が期待できる。